（事務局記入欄）審査番号　　　　―

駒 澤 大 学 長　殿

動物実験計画書

　下記に記載する内容で動物実験を計画しております。「駒澤大学動物実験に関する指針」に基づき実験計画書を提出いたします。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 申請日（西暦） | 年 | | 月 | 日 | | |
| (1)動物実験責任者 | 所属 | | 氏名 | | | 教育訓練受講の有無 |
|  | |  | | ㊞ | □ 有　　□ 無 |
| (2)動物実験実施者  ※必要に応じて行を増やしてください。 | 所属 | | 氏名 | | | 教育訓練受講の有無 |
|  | |  | | | □ 有　　□ 無 |
|  | |  | | | □ 有　　□ 無 |
|  | |  | | | □ 有　　□ 無 |
| (3)研究課題 |  | | | | | |
| □ 新規　　　　□ 継続　　　　□ 更新 | | | | | |
| (4)目的・意義  ・必要性等 |  | | | | | |
| (5)実験動物に  対する具体的な  実験処置の方法 |  | | | | | |
| (6)実験実施予定期間 |  | | | | | |
| (7)実験計画の  種類 | □ 研究　　□ 教育  □ その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | |
| (8)使用する  動物名個体数 |  | | | | | |
| (9)実験の  実施場所 |  | | | | | |
| (10)飼養方法 | 飼養場所： |  | | | | |
| □ 個別飼育　　□ 群飼育（1ケージあたりの匹数：　　　） | | | | | |
| 飼料： | | | | | |
| (11)動物実験を  必要とする理由 | □ 検討したが、動物実験に替わる手段がない。  □ 検討した代替手段の精度が不十分である。  □ その他（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | |
| (12)実験処置に  より予想される  実験動物の苦痛  の程度  （SCAWｶﾃｺﾞﾘｰ） | □ B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。  □ C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み（短時間持続するもの）を伴うと思われる実験。  □ D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験。  □ E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。 | | | | | |
| (13)実験動物の  苦痛軽減方法 | □ 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲内のため、特に処置を講じない。  □ 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。  □ 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。  （具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　 ）  □ 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。　※ (14) (15)も回答すること。  （エンドポイントの判定を記入：　　　　　　　　　　　　　）  □ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | |
| (14)実験動物の  処分方法  （安楽死の方法）  ※該当する場合  のみ記入すること | □ 麻酔薬等の使用  （具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　　 ）  □ 炭酸ガスの吸入  □ 頸椎脱臼  □ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | |
| (15)実験動物の  死体の処分方法  ※該当する場合  のみ記入すること |  | | | | | |
| (16) その他必要または参考事項 |  | | | | | |
| (17)委員会記入欄 | 審査終了：　　年　　月　　日  修正意見等  審査結果  □適合  □条件付適合  □不適合 | | | | | |
| (18)学長承認欄 | 承認：　　年　　月　　日  本申請を承認します。  承認番号：第　　　　　　号  駒　澤　大　学　長 | | | | | |